

度、思考活動の程度を示すものとした。

調査① 「支援要求傾向」 (小学校の例)

4 : 手伝いがほしい 3 : 時々手伝いがほしい
2 : あまり手伝いはいらない 1 : 手伝いはいらない

- 1 学習のめあてをつかむ。
- 2 学習や実験を計画を立てて行う。
- 3 わかったこととわからないことを区別する。
- 4 わからないことを、わかろうと努力する。
- 5 何か聞きたいことがあったとき、質問できる。
- 6 どのくらいできるようになったかわかる。
- 7 自分の考えをまとめたり、発表したりする。
- 8 自分なりに解決方法を考える。
- 9 わかる(できる)ようになるまで、あきらめずにがんばる。
- 10 新たな疑問や難しい課題の解決にむけて努力する。

調査③ 「思考活動の程度」

5 : とてもよくあてはまる 4 : あてはまる
3 : 少しあてはまる 2 : あまりあてはまらない
1 : まったくあてはまらない

- 1 学習課題は何かをつかむ (つかんだ)。
- 2 結果を予想する (した)。
- 3 課題を解決するための方法をすじみちを立てて考える (考えた)。
- 4 課題を解決するために、自分なりに工夫する (した)。
- 5 結果を、予想や体験、今までの学習内容と関連づける (づけた)。
- 6 自分で考えることで課題を解決する (した)。
- 7 自分の考えをまとめたり、発表したりする (した)。
- 8 疑問に思うことや、もっと調べてみたいことがある (できた)。

() は事後調査の項目

調査② 「関心・意欲の程度」

5 : とてもよくあてはまる 4 : あてはまる
3 : 少しあてはまる 2 : あまりあてはまらない
1 : まったくあてはまらない

〈関心の程度〉

- 1 「なぜ、どうして」と思うことがある (あった)。
- 2 考えてみようと思うことがある (あった)。
- 3 調べてみようと思うことがある (あった)。
- 4 やってみたいと思うことがある (あった)。

〈意欲の程度〉

- 5 「なぜ、どうして」と思うことを解決したい (しようとした)。
- 6 自分から進んで考えたい (考えた)。
- 7 自分から進んで調べたい (調べた)。
- 8 自分から進んでやりたい (やった)。

() は事後調査の項目

調査④は、各実践における具体的方策の効果を、児童生徒の評価によってとらえようとするもので、それぞれに評価項目をつくって調べ、その結果を調査①～調査③と同様に数量化した。

調査⑤は、学習した事象の、事実、相互、因果などの関係がどの程度理解できたかをみるもので、各実践でテスト問題を作成して実施した。

これらの調査結果をもとに、対象児童生徒について、調査②と調査③との間の相関関係、調査③と調査④との間の相関関係、調査③と調査⑤との間の相関関係などを調べ、思考活動を活発にする方策が、知識・理解、技能の獲得にどのような効果があるかを明らかにした。相関をみる場合は、相関係数 γ を求め、以下によって判断した。

$0 \leq \gamma < 0.2$ …… ほとんど相関がない
 $0.2 \leq \gamma < 0.4$ …… やや相関がある
 $0.4 \leq \gamma < 0.7$ …… かなり相関がある
 $0.7 \leq \gamma \leq 1$ …… 強い相関がある